

計画段階評価対応方針

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
信濃川直轄河川改修事業(中流部改修(大河津分水路を含む)) 北陸地方整備局	・大河津分水路区間では、せき上げと河積不足により流下能力が不足しており、小千谷地区や十日町地区でも河積不足等により流下能力が不足している。 ・戦後最大の観測流量を記録した昭和56年8月洪水や、戦後第3位の観測流量を記録した平成23年7月洪水では、信濃川でHWLを超過し、堤防未施工区間等で浸水被害が発生。	戦後最大規模の洪水である昭和56年8月洪水と同規模の洪水が発生しても、堤防の決壊、越水による家屋の浸水被害の防止又は軽減を図る	・戦後最大規模の洪水である昭和56年8月洪水と同規模の洪水が発生しても、堤防の決壊、越水による家屋の浸水被害の防止のために複数の治水対策案を立案した。 ・信濃川中流部での適用性を考慮して、「河道掘削案」「遊水地案」「新規放水路案」「堤防嵩上げ案」を抽出して、7つの評価軸（「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価した。 （案1）河道掘削を中心とする案 ・大河津分水路山地部掘削＋河道掘削 （案2）遊水地を中心とする案 ・大河津分水路山地部掘削＋河道掘削＋遊水地 （案3）新規放水路を中心とする案 ・大河津分水路河口部トンネル放水路＋河道掘削 （案4）堤防の嵩上げを中心とする案 ・大河津分水路の堤防嵩上げ＋河道掘削	4案のうち、「コスト」について最も有利な案は、案1「河道掘削を中心とする案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素がないと考えられるため、案1による対策が妥当

計画段階評価対応方針

【海岸事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
西湘海岸 海岸保全施設整備 関東地方整備局	・平成19年台風9号による西向きの沿岸流により大量の砂礫が海底谷へ流出し、大規模な海岸侵食が生じ、西湘バイパス西湘二宮IC付近において、砂浜が完全になくなり、護岸等が被災した。 ・酒匂川から大磯港において、海底勾配が急峻な海底谷が迫ることから、酒匂川からの供給土砂の流出を防ぐとともに、通常時と高波浪時で方向の異なる沿岸流に対しても砂礫流出を防ぐ、海岸侵食対策が必要。	・相模灘沿岸海岸保全基本計画を踏まえ、最低限30m以上の幅と適度な勾配をもつ砂浜とし、防災機能を最大限に発揮させる。	・海岸の防護が期待できる対策を、できる限り幅広い海岸保全対策を比較することが必要なことから、新工法を含め17種類の工法について比較検討した。 ・砂浜回復の効果、地域社会への影響等により、「突堤等による対策案」「ヘッドランド等による対策案」「岩盤型施設（仮称）等による対策案」を抽出して、7つの評価軸（「安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価した。 （案1）突堤等による対策 ・突堤＋堤防・護岸＋養浜 等 （案2）ヘッドランド等による対策 ・人工岬・ヘッドランド＋堤防・護岸＋養浜 等 （案3）岩盤型施設（仮称）等による対策 ・岩盤型施設（仮称）＋堤防・護岸＋養浜 等	・西湘海岸の沿岸漂砂の特性及びコストについて最も有利な案は岩盤型施設（仮称）等による対策であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないため、岩盤型施設（仮称）等による対策が妥当。